B.C. 7,000 | 縄文時代～

縄文の人々の暮らしを知る



信仰

縄文の人たちは水場の祭祀場を不要になった石製の道具を納める“供養の場”としており、水が湧き出て石材が採取できる場所を神聖視していました。また、あらゆるものへの感謝と畏敬の念を持って、日常的に「まつり」が行われていました。





住居

縄文人は竪穴式住居に住んでいました。また北黄金貝塚では、海岸線の後退など自然環境の変化に伴って、居住空間を移動していたことがわかっています。





食事

主に、オットセイなど海獣やカキ・ウニなどの魚介類を食べていました。主にドングリなどのデンプン質を食べていた本州の縄文人よりも虫歯が少ないという調査結果が出ています。





貝塚

貝塚からは丁寧に葬られた人骨も発見されていることから、縄文人は貝塚を単なるゴミ捨て場ではなく「全ての生き物の墓地」と考えていました。





道具

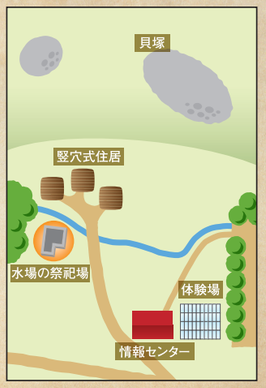
縄文人は生活に必要な道具はすべて自分たちで作りました。北黄金貝塚でも、底が平らな貝殻文土器（上坂式土器）や北海道式石冠とよばれるすり石など様々な道具が発見されています。





COLUMN

北黄金貝塚の功績



昭和62年12月、北黄金貝塚は道内2番目となる国の史跡に指定されました。それは北黄金貝塚の調査により考古学的、人類学的に新たな発見や成果があった点が評価されたからです。たとえば、貝塚から屈葬された人骨などが発見されており、埋葬の場として使われていたことは祭祀や儀礼の場としても重要な遺跡であり、それまで“貝塚=ゴミ捨て場”とされていた定説に一石を投じる発見だったと言えるでしょう。





史跡北黄金貝塚公園

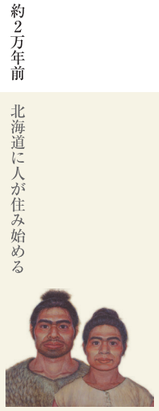
住居跡や水場の祭祀場など縄文人の足跡がうかがえる北黄金貝塚公園には貝塚や竪穴式住居も復元されており、縄文体験学習では発掘調査の模擬体験などができます。

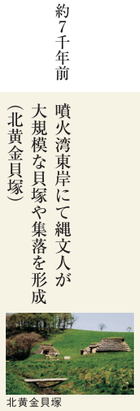
住 伊達市北黄金町75 TEL 0142-24-2122

西暦年	約1万年前		前3世紀	7世紀			13世紀		17世紀	
本州	旧石器時代	縄文時代	弥生時代	古墳・飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	室町時代	安土・桃山時代	江戸時代
北海道			続縄文時代	擦文時代			アイヌ時代			

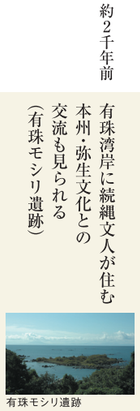
北海道および伊達での出来事

- 約2万年前 北海道に人が住み始める
- 約7千年前 噴火湾東岸にて縄文人が大規模な貝塚や集落を形成（北黄金貝塚）
- 約3千年前 本州・亀ヶ岡文化が北海道に伝播
- 約2千年前 有珠湾岸に続縄文人が住む 本州・弥生文化との交流も見られる（有珠モシリ遺跡）
- 3世紀頃～ オホーツク文化が樺太から南下
- 7世紀頃～ 擦文文化がおこる
- 13世紀頃～ アイヌ文化がおこる
- 1457年 松前藩の武田信広がコシャマインを討ち和人が蝦夷地の支配権を持ち始める
- 1855年 蝦夷地が幕府の管轄下となる





北黄金貝塚



有珠モシリ遺跡



【14体の人骨】

北黄金貝塚で発掘された人骨は、これまで見つかった中では北海道内で最古級のもので、古人骨研究に欠かせないものです。北海道の縄文人から近世アイヌ人までの人骨を調べると、縄文人の特徴をほとんど変えずに各時代へ受け継がれていることがわかりました。



【矢じり】

縄文文化の矢じりは先が長く、細いため優美な姿をしています。墓に入れるために作られたと考えられています。

COLUMN

アイヌの人々の暮らし

伝統的なアイヌ文化の生活様式が成立したのは、おおよそ13～14世紀頃。この頃のアイヌ社会は活発な交易を行いながら独自の信仰や生活様式を生み出して暮らしていました。







▶ヒグマの霊を宴で神の国に送り出すイヨマンテなど、霊送りの儀式が行われていました。



◀アイヌ民族は「アットゥシ」と呼ばれる、山野に自生するオヒョウやシナ、ハルニレなどの木の内皮を素材とした、樹皮衣を着用していました。

資料提供:アイヌ民族博物館



発掘された歴史の証人

北黄金貝塚出土品
約7,000年前～4,500年前



【クジラの骨でできた骨刀】

約6000年前のものと考えられ、当時は中国でも刀はつくられておらず、縄文人が独自に刀の形をつくったといえます。物を切るための道具ではなく、自然災害を避け、悪い霊などを寄せ付けないなど、見えない物を切るための道具だったのかもしれません。



【土器】

北黄金貝塚で最も多く出土する土器は、縄文前期の土器です。芸術的ともいえるこの美しい模様には、大切な願いや意味が込められているのかもしれません。

【北海道式石冠】

把手のついたすり石のことで、なぞの多い石器とされており、使われた範囲は北海道と東北北部の一部に限られています。

【シカの骨・クジラの骨でできた儀式用のスプーン】

約6000年前のものと考えられる儀式用スプーン。約2000年前の有珠モシリ遺跡から出土したものとほぼ同じなことから、4000年もの間、ほぼ変化がなかったことがわかります。

【土偶】

縄文時代晩期の土偶で下半身が壊れてありません。目や髪型が表現されています。



【首飾り】

ヒスイなど硬くてキレイな石が選ばれていました。



有珠モシリ遺跡出土品
約2,000年前

【土器】

土器の模様は、縄文人の宇宙や世界観、自然に対する畏れや祈りなど様々なことを表していると考えられています。

【クマを彫刻したスプーン】

続縄文恵山文化の代表的な道具です。クマの彫刻が特徴的で、祭祀の時の道具と考えられています。



【イモガイの貝輪】

南海産のイモガイで作られた貝輪。弥生文化では権威の象徴として身に付けていました。この時代にすでに列島規模での交易が行われていた証だと考えられています。